

## 第4学年図画工作科学習指導案

日 時	平成21年9月3日(木) 5校時
場 所	九戸村立江刺家小学校 4年教室
児 童	4年生 男子5名 女子5名 計10名
授業者	馬場 理恵子

### 1 題材名 「ゆめを広げて」

### 2 題材について

#### (1) 題材について

本題材は、新学習指導要領の中学年の目標(1)「進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。」を主なねらいとし、指導内容A表現の(2)のア「感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。」を主な内容として設定した題材である。

4年生は、ある程度物事を関連付けて考えられるようになり、自分の考えを大切にしたり、気に入った活動を意欲的に追求したりするようになる時期と言われている。また、興味や関心をもつ対象が広がるとともに夢や願いをかいいたり、冒険心に富んだ表現を試みたりするなど、想像力を働かせることを一層楽しむ姿も見られることから、今回の題材はその発達段階を生かす内容のものとしてふさわしく、子どもたちの興味を惹く、魅力的な題材であると考えられる。

#### (2) 児童について

本学級では、図工の時間を楽しみにしている児童が多く、製作活動に於いては意欲的に取り組んでいる。しかし、想像して絵に表すことが苦手な児童が多いため、これまで、かき始めの段階で悩み、時間を必要としてきた。また、色づくりや様々な色を重ねて描くことも苦手で、絵の具を混ぜて色をつくらうとしなかったり、色をつくる度に色の組み合わせを聞いたりする児童が多く見られた。

そこで、「キラキラ光る絵」、「わすれられない日」、「絵の具のふしぎ」の題材で、色づくりや色の重ね方に注意しながら指導にあたったことにより、色を混ぜて色づくりをする児童が増えてきた。また、前時の鑑賞活動で想像画に親しんだことによって、児童は想像して絵に表現することへの抵抗が少なくなってきた。

今回の題材では、想像力を働かせ、現実の形や色にとらわれず空想したお話の世界を表現する力を育てたい。

#### (3) 指導に当たって

指導で大切にしたいのは、児童が自分の思いをもって楽しく想像し、つくりだす喜びを味わうことができるようにすることである。つくりだす喜びを味わうことによって、進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てることにつながると思う。

準備段階では、発想を豊かにするための手立てとして、自分の夢を初めに文章化させてから絵で表現させるように工夫した。文章で表現させることで、想像して絵に表現することが苦手な児童も自分の考えが明確になり、絵に表現しやすくなる。また、すぐに想像した世界を表すことができない児童やじっくり考えることが苦手な友達の考えに流されてしまう児童が多いという実態と限られた時数の中でかいいたりつくったりする活動を十分に確保することを考慮し、夢の世界を文章で表したお話づくりを家庭学習の課題にする。

発想・構想の段階では、児童が興味や関心をもって自分の想像で表現していくことができるように鑑賞の活動と関連を図り、発想の際の手助けとなるようにつなげていく。さらに、絵に夢の1場面をかくのではなく1枚の絵に夢の様々な場面をかくように指示し、発想・構想の力を育てたい。また、言語活動を意識し、

この段階でも発表の場を設定して自分のかく夢についてみんなに説明し、発表の力を育てるとともに意見交流の場にもしていきたい。

かいたりつくったりする段階では、初めの想像に新たな発想を加えたり、試して変化させたりしながら思いをふくらませて楽しく表現させたい。そのため、毛糸や紐、ビーズ、色画用紙等の材料コーナーを設ける。

作品を鑑賞し合う段階では、言語活動を取り入れ、個々の作品のよさや工夫した点などを発表し合い、お互いを認め合うように活動を進め、一人一人につくりだす喜びをさらに味わわせたい。そして、自分の活動を振り返ると共に別の感じ方があることにも気付かせたい。

また、今回の指導要領で新たに設けられた[共通事項]について、発想・構想の段階、製作の段階、鑑賞の段階で共通事項ア、イを意識し指導していきたい。

### 3 題材の目標

- (1) 想像した世界の表現に、楽しみながら取り組む。[造形への関心・意欲・態度]
- (2) 自分なりに表したいことを思いつき、ふくらませようとする。[発想や構想の能力]
- (3) 想像した世界を効果的に表現できる材料を選び、工夫してかいたりつくったりする。[創造的な技能]
- (4) 自分や友達の作品に関心をもつとともに、作品のよさやおもしろさに気付いたり、表し方や感じ方の違いに気付いたりする。[鑑賞の能力]

### 4 準備

- (1) 教師：鑑賞作品、画用紙、色画用紙、新聞紙、両面テープ、貼り付けられる物（おはじき・ビー玉・モール・セロファン・毛糸・紐等）
- (2) 児童：水彩用具一式、のり、ボンド、はさみ、自分で貼り付けたい物（ビーズ・布等）

### 5 指導計画と評価規準（6時間）

次	学習活動	学習活動における具体的評価規準（評価方法）			
		関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞の能力
1 次 ① 本 時	・想像した夢のお話の世界を簡単な絵で表す。	・夢の世界のイメージを広げて構図を考えようとしている。	・夢の世界を表現するための構図を考えている。		・友達の構図の工夫した点に気づき伝えている。
2 次 ①	・前時のスケッチをもとに夢の世界の構成を考え、下絵をかく。	・進んで考え、丁寧に下絵をかこうとしている。	・イメージを広げると共に大きさや位置や背景を考えて夢の世界の表し方の見通しを持っている。		・友達の工夫した点やよさに気づき伝えている。
3 次 ③	・想像した世界に彩色や効果的に表現できる材料を選びながら工夫して表していく。	・想像した世界を表すことを楽しんでいる。	・想像した世界になるよう、適切な色や構成、材料、用具について考えている。	・用具や材料を自分で選び、試したり工夫したりしながら表している。	

4 次 ①	・互いの作品を鑑賞し合い、よさや工夫している点について話し合う。	・互いの作品に関心を持ち、進んでよさや工夫している点を見つけようとしている。			・自分の夢の世界を相手に分かるように紹介し、友達の作品のよさや工夫している点を見つけ、伝えている。
-------------	----------------------------------	--	--	--	---

## 5 本時の指導

(1) 目標 想像した夢の表し方を考えることができる。

### (2) 展開

過程	学 習 活 動	指 導 の 留 意 点
導 入  8 分	<p>1 考えた夢を紹介する。 ○自分が考えた夢を紹介しましょう。</p> <p>2 学習のめあてを知る。 自分のゆめをどのように絵にかくか考えよう。</p> <p>3 ラフスケッチのかき方を確認する。 ○今日の活動の流れをみんなで確かめましょう。 (1) 夢の中から絵に表したいものを言葉でメモする。 (2) 紙は縦にするか横にするかを考える。 かくものの大きさやどこにかくかを考える。 (3) ラフスケッチをかく。 (困ったことがあったら、付箋用紙に書いて後で友達に相談しよう。) (4) 時間がある人は、色をつける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2名程度の発表にする。</li> <li>・自分が考えた夢を絵に表すことを確認させる。</li> <li>・楽しい雰囲気にするように題字を工夫する。</li> <li>・児童が手順に迷わないように活動の流れを板書し、学習シートを配り、説明をしていく。</li> <li>・夢を書いた用紙は、後で学習シートに貼ることを知らせる。</li> <li>・前時の鑑賞画を思い出させ、夢のいろいろな場面を一枚の絵に表すことを確認する。</li> <li>・かいていく途中、悩んだり困ったりした場合は、付箋用紙に書き、ペアの発表の場で相談し、アドバイスをもらうことを確認する。</li> </ul>
展 開  25 分	<p>4 ラフスケッチをかく。 ○それでは、(1)～(4)の手順で、夢を絵に表わしましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に思考させながら、夢中になって活動できるように、できるだけ途中で説明を加えないようにしていく。</li> <li>・児童のイメージを把握するために、時には個別に尋ね、机間巡視する。</li> <li>◆夢の世界を表現するための構図を考えようとしている。(関心・意欲・態度) ＜児童の様子＞</li> <li>・すぐに活動に取り組めない児童には、夢の確認と絵に表したいものは何か、紙は縦か横どちらにするかを対話を通して引き出し、初めにどんなものをかくか考えていくことができるように導く。</li> </ul>

展 開		<p>◆夢の世界を表現するための構図を考えている。(発想・構想)</p> <p>＜学習シートのラフスケッチ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか構図を考えられない児童には、対話を通してかきたいイメージを引き出し、かきかたなどを紹介して自分でかくことができるようにさせる。また、場合によっては、周りの友達にアドバイスをしてもらい参考にさせる。</li> </ul>
終 末  12 分	<p>6 ペアで見せ合い、アイデアを交流する。</p> <p>(1) 夢を紹介する。</p> <p>(2) 絵を指しながら説明する。</p> <p>(3) 困っていることがあったら、ペアの人に相談する。</p> <p>(4) 聞いた人は、友達の工夫した点やよい点を見つけて話す。困っていることへのアドバイスをする。</p> <p>7 活動のふり返りをする。</p> <p>8 次時の活動の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージを持ち、児童自身が気づいて活動を展開していくことができるように、ペアの交流の場や活動のふり返りでの全体の交流の場を設定した。</li> <li>◆友達の構図の工夫した点に気づき、伝えている。(鑑賞の能力)</li> </ul> <p>＜児童の交流の様子＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の工夫した点を見つけ伝えることができるように、交流の初めに聞く側の視点を確認しておく。</li> <li>・アドバイスができず困っていたり、もう少しいろいろなアドバイスを求めている児童がいたら、全体にアドバイスを求める場を設け、支援する。</li> <li>・今日の活動の感想を2名程度に発表してもらおう。</li> <li>・今度は画用紙にかくことを確認する。その時、今日のアドバイスを参考にしたり、自分のイメージを広げ新しく付け加えたりしてもよいことを知らせる。</li> </ul>

(3) 本時の具体の評価規準

	A	B	Bに至らない児童への手立て
関心・意欲・態度	・夢の世界のイメージを広げて構図を考えようとしている。	・夢の世界の構図を考えようとしている。	・夢の世界を対話を通して引き出し、明確にさせる。
発想・構想	・夢の世界を表現するための構図を工夫して考えている。	・夢の世界を表現するための構図を考えている。	・具体的な方法を対話を通して紹介したり、友達のアドバイスを参考にしたりする。
鑑賞の能力	・友達の構図の工夫やそのよさに気づき伝えている。	・友達の構図の工夫した点に気づき、伝えている。	・友達の構図を見る時の具体的な視点を与えてあげる。

(4) 板書計画

ゆめを広げて

自分のゆめをどのように絵にかくか考えよう。

活動の流れ

- (1) ラフスケッチをかく。
- (2) ペアで交流
- (3) 活動のふり返り
- (4) 次時について

ラフスケッチをかく手順

- (1) 絵に表したいものを言葉でかく。
- (2) 紙をたてにするか横にするか考える。  
かくものの大きさやどこにかくかを考える。
- (3) ラフスケッチをかく。  
(困ったことがあったらふせん用紙にかく。)
- (3) 色をつける。  
(時間がある人でよい。)

ペアで交流

- (1) ゆめのお話を紹介する。
- (2) 絵を見せながら説明する。
- (3) こまっていることがあったらそうだんする。
- (4) 聞いていた人は友達の工夫した点やよい点を話す。  
こまったことへのアドバイスを  
をする。